

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 24 日現在

機関番号：33910

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320192

研究課題名(和文) 在日・在中アフリカ人の生活戦略と日中アフリカ関係の都市人類学的研究

研究課題名(英文) Urban anthropology of Life strategy of Africans living in Japan and China and relationships among Japan, China and Africa.

研究代表者

和崎 春日 (WAZAKI, Haruka)

中部大学・国際関係学部・教授

研究者番号：40230940

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円、(間接経費) 4,050,000円

研究成果の概要(和文)：日本におけるアフリカ人の生活動向を調査研究してきたが、これを継続しつつこれに、中国におけるアフリカ人の生活動向の調査研究を加えて、総体として経済発展を遂げた日中とアフリカとの人的交流関係が分厚く析出・考察できてきた。特に、中国・広州でのアフリカ人の活発な生活動態をめぐって、その商業実態を繊維マーケット街区(三元理)とアフリカ商業ビルがある機械・車・電化製品交易センター(小北)とで、そこに凝集してくるアフリカ人の参集度から調査・研究した。そして、これを論文の形で報告できた。

研究成果の概要(英文)：Up to now, in terms of continuing the research focus onto Urban anthropological study of the Life strategy of Africans staying in Japan, we added and accumulated the research focus on the Life strategy of Africans living in China, especially in the city of Kwanchou. Especially, we have researched the active commercial behaviours in Kwanchou city, where so many living Africans in this city, people say the number is about 200,000, could be observed to act and cooperate one another tiding over differences of ethnic origins and different nationalities, for example, Nigerians, Cameroonians, Malians et. And active Islamic gathering as well, could be remarkably observed specially among French speaking people coming from the West African countries. Urban anthropology of Life strategy of Africans living in Japan and China and relationships among Japan, China and Africa.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学 文化人類・民俗学

キーワード：在日アフリカ人 在中アフリカ人 都市人類学 移民 労働移動 日中アフリカ関係 多民族共生

1. 研究開始当初の背景

世界の大市场となりつつある中国と日本との関係、さらに世界の新たな市場として重要度を増し近年その関係が増大しているアフリカと日本との関係、今日、欠くことのできないこの重要な両関係をつないで複合対象とし、日本都市・中国都市に流入し近年のグローバル化を具現して活発に活動するアフリカ人の生活動向があり、これを調査・研究する必要性に迫られていた。

また、これまでまったく調査されてこなかった中国都市のアフリカを含んだ国際性の事態調査を、アフリカ人の流入・移民のパースペクティブから、都市人類学として研究する必要性が高まっていた。

2. 研究の目的

上記のような時代・社会背景のもと、東アジア内の中国と日本との関係を考えるという目的をまず持つ。さらに、新たな世界市場として重要度を増し近年その関係が増大しているアフリカ人の、日本国内や東アジアへの無視できない大量の流入がなされている大きなディアスポラ動向を、考察するという目的をもつ。つまり、今日、この重要な両関係をつないで複合対象とし、日本都市・中国都市に流入し近年のグローバル化を具現して活発に活動するアフリカ人の生活動向の調査・研究から、今までにない新たな「アジア・アフリカ都市間の相互移動の人類学」つまり「アフラシアの相互移動の都市人類学」を推進することを本共同研究の重要な複合目的とする。

本研究によって、日中アフリカ間でアフリカ人が「主語」となった往復・反復的な大量の移動活動が明らかにされ、アフリカや南側世界に付された歴史的「暗黒」概念を払拭し、新たな多地域・多元的な共生モデルを提示することを目指す。

3. 研究の方法

アジア・アフリカ関係のなかで、バンコックや香港、シンガポール、東京・名古屋・京阪神などの各都市にも、多くのアフリカ人が移動・滞在・定着しているが、近年、中国都市への流入、特に広東省の諸都市(広州、深圳、香港)、その中でもとりわけ広州へのアフリカ人移入(20万人)が突出して大きい。こうして、日本都市(東京・名古屋・京阪神の三大都市圏)と中国都市(広州、深セン、香港)でのアフリカ人の活発な商業活動と大量で積極的な営為を具体的にフィールドワークにより調査していく。またそ

こに独自性がある。こうして、アフリカ中国の相互関係とアフリカ日本の相互関係を複合的に調査し、今までになかった「日中とアフリカを結ぶアフラシアの相互移動の都市人類学」研究を推進する、という方法をとった。さらに日中だけではなく、中継点などをも視野にいれ、アジア全体に視点を広げて、アフリカからアジア全体にどれだけアフリカ人の来訪・移住による交流があるかを調査・研究し、次の研究発展につなげる展望をおこなった。

4. 研究成果

日本と中国で、最も多い人口を誇るナイジェリア人(特にイボ人)の生活動向については、松本尚之、和崎春日を中心に、調査研究を着実に進め、論文等で発表した。

在日アフリカ人のなかで、西アフリカのフランス語系のセネガル人、コート・ジヴォアール人、マリ人、ギニア人、カメルーン人たちは、商業活動や音楽芸能活動で、日中アジアに展開しており、この特色あるディアスポラ動向を追及した。

三島禎子は、西アフリカのセネガル人の国際移動と人口動向を「アフリカ人商業民の歴史的・地理的展開についての研究」のタイトルでパリデカルト大学人口開発研究センターとの連携(CEPED: Centre pour l'étude de la Population et le Développement)を図り Yves Charbit 所長が企画する共同研究への参加等を通して、アフリカ人移民をめぐる諸外国の研究者との研究交流を促進させた。

鈴木裕之は、在日ギニア人、マリ人、コート・ジヴォアール人、セネガル人などの芸能者の活動を積極的に追いかけて、その母村のアフリカ調査を行って、アフリカ人の音楽活動に関する論考をフランス語でも発表した。

フランス語圏在日アフリカ人の芸能活動については、代表・和崎春日もふくめて3人が積極的に調査し、とくに日本で人気を集めている太鼓(ジェンベ)教室およびダンス教室の背景となる音楽文化(主にギニア・マリを起源)を研究すると共に、その活動について報告をおこなった。フランス語圏ではあるが、英語話者が多い在日カメルーン人については、和崎春日が多くの論文をまとめ、これを公表することができた。

東アフリカ出身者については、栗田和明がこれまでの蓄積調査を開花させ、総合的な単著『アジアで出会ったアフリカ人』の

書物にまとめて出版した。

中国において中国人とアフリカ人の交流状況や、中国社会へのアフリカ人の流入をめぐることは、栗田和之、奈倉京子、松本尚之、和崎春日が積極的に実地調査を遂行した。それは、主に以下の3点で調査研究を遂行した。広州のイスラーム街、アフリカ人コミュニティにて参与観察。中山大学、広州社会科学院の研究者と意見交換。

五邑大学僑郷文化センターにて移民に関する資料収集である。

奈倉京子は、とくに「和諧社会」という中国における公共性創造の概念との関連で中国社会の周辺部にいるアフリカ人たちを捉え、文化的公民権から見た華南における周縁的グループとしてのアフリカ人社会を考察した。

今後の東アジア全体、東南アジア全体へのアフリカ人の混入と交流をはじめとする国際化の実態を追跡するために、渡辺欣雄が今後の発展をかけた沖縄、台湾での予察的な調査をおこなうことができた。さらに、東南アジア（ベトナムを中心に調査：長坂康代、和崎春日）にも調査を広げて考察を進めた。これを次期プロジェクトに展開したい。渡辺によってカメルーンにおける大都市での中国人との交流と中華街の形成について、和崎とともに共同調査を行うことができた。さらに、中央アジアでのアフリカ人の流入を歴史人類学に捉える第1次調査もこの地域の専門研究者の協力（京大地域研究統合情報センター・和崎聖日研究員）を得て実施した。こうした調査・研究を今後の共同研究プロジェクト発展に生かしたい。

田中重好は、こうしたアジアにおける人的交流を、とくに災害などの緊急事態に際しての協働性をめぐって、共同性や公共性への理論へと昇華する作業を繰り返しおこない、精力的な論文・書物の発表をおこない、とくに社会学における近年のメインテーマ「公共圏」の理論化へと本共同研究の国際交流を発展させた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計20件)

和崎春日「アフリカ人の日常生活からみるミクロ世界戦略 日中在住カメルーン人の生活ネットワーク」『中部大学民族資料

博物館 調査研究報告』平成24年度・平成25年度合併号、査読無、2014年、1-11頁。

和崎春日「在日・在中アフリカ人の生活戦略とホスト社会の受容性」『研究論集』第36号、愛知大学短期大学部、査読有、2013年、59-80頁。

和崎春日「日本 カメルーン往還の交流史 東京オリンピックから滞日アフリカ人まで」『貿易風 中部大学国際関係学部論集』第8号、査読無、2013年、243-254頁。

和崎春日・井上一明・坂本浩一・壽賀一仁「今アフリカを考える 大きな可能性を秘めたアフリカ」『三田評論』1165号、慶應義塾大学、査読無、2013年、10-26頁。

田中重好「東日本大震災：社会学から何を問うか」『東日本大震災 弘前大学からの展望』弘前大学震災研究交流会、弘前大学出版会、査読無、2013年、227-249頁。

田中重好「想定外の社会学」『東日本大震災と社会学』田中重好・船橋・正村編、ミネルヴァ書房、査読無、2013年、275-328頁。

奈倉京子「団地における『中国系』住民と日本人住民との『融合的コミュニティ』の構築に向けて」『慶應義塾大学東アジア研究所叢書現代における人の国際移動・アジアから日本へ』吉原和男編、査読無、慶応大学出版会、2013年、125-150頁。

和崎春日「建造物・陳列物の展示性をめぐる比較博物館学的調査 ベトナム、フランス、カメルーン」『中部大学民族資料博物館調査研究報告』平成23年度号、査読無、2012年、1-13頁。

田中重好、「災害へのコミュニティ・アプローチとコミュニティ防災」『名古屋大学社会学論集』32号、査読有、2012年、75-98頁。

Tanaka Shigeyoshi Community Approach and Community Preparedness to Disaster, Djati/MakotoTakahashi ed., *Community Approach to Disaster*, Gadjah Mada Univ. Press, 2012、査読無、pp.1-37.

鈴木裕之 'Jeliya (l'art des griots) dans le show-business d'Abidjan : l'art traditionnel de la louange dans la modernisation'"Cultures Sonores d'Afrique " 『アフリカ無形文化財存続の条件を探る』川田順造編、神奈川大学日本常民文化研究所、査読無、2012年、15-39頁。

奈倉京子「中国系移民の文化とローカルティ 帰国華僑の文化変容から『華人』を問い直す」、『静岡県立大学国際関係学部

紀要』第11巻第1号、査読有、2012年、57～83頁。

奈倉京子「中国における華人研究の新機軸」『華僑華人研究』日本華僑華人学会、第9号、査読有、2012年、130～137頁。

和崎春日「アフリカへの中国人と中国へのアフリカ人」『神話・象徴・図像』篠田知和基編、楽蔭書院、査読有、2011年、369-386頁。

和崎春日「産業人類学、都市人類学、超国家の人類学をつなぐもの 滞日アフリカ人の生活動態から十時巖周の『混乱と境界侵犯の人類学』を見る」『法学研究』第84巻第6号、査読有、2011年、216-234頁。

和崎春日「民族交流都市・大須の自他融合 滞日アフリカ人から若者・芸能者まで」『貿易風 中部大学国際関係学部論集』第6号、査読無、2011年、97-116頁。

田中重好、「河川の公共性：水はだれのものか」清水裕之・檜山哲哉・河村則行編『水の環境学』名古屋大学出版会、査読無、2011年、263-282頁。

田中重好、「縮小社会を問うことの意味」地域社会学会『地域社会学年報』23集、査読有、2011年、5-17頁。

田中重好、「生活公共性の展開へ：藤田弘夫からの『宿題』」三田社会学会『三田社会学』第16号、査読有、2011年、4-24頁。

田中重好、「水都再生への序論」慶応義塾大学法学研究会編『法学研究』第84巻第6号、査読有、2011年、235-277頁。

〔図書〕(計8件)

鈴木裕之「文化の構成要素としてのドラッグ：アビジャンのストリート文化における大麻」章担当『アフリカ・ドラッグ考：交錯する生産・取引・乱用・文化・統制』落合雄彦編(落合雄彦、スティーブ・エリス、原口武彦、石田信一郎、浜田明範、金田知子、佐藤千鶴子、山本雄大と共著)、晃洋書房、242頁、2014年、27-54頁。

奈倉京子『「和諧社会」との対話：文化的公民権から見た華南における周縁的グループ』愛知大学国際中国学研究センター、2012年3月、55-64頁。

Shigeyoshi Tanaka and Xiaoye Zhe ed, *A Comparative Sociology of Publicness*, Social Science Academic Press (China): 2013, 350pp.

松本尚之「ナイジェリア・イボ社会における移民組織と王制 王位を媒体としたつながり の構築と断絶」8章担当『つな

がりの文化人類学』高谷紀夫・沼崎一郎編(高谷紀夫、沼崎一郎、川口幸大、上水流久彦、玉城毅、杉本敦、吉田香世子、二階堂裕子、渋谷努、松本尚之、久保田亮共著)、東北大学出版会、340頁、2012年。

三島禎子「民族の離散と回帰 ソニンケ商人の移動の歴史と現在」章担当、共著『ブラックディアスポラ』小倉充夫編、明石書店、2011年、105-130頁。

和崎春日「カメルーン民衆生活誌」章、共著『アフリカに暮らして』多摩アフリカセンター編(飯島道郎、石川晃一、古閑恭子、清水里美、横井水穂、横関祐美子、八木繁実、八木宏子と共著)、春風社、2012年、102-187頁。

若林チヒロ「日本に暮らすガーナ人」章共著『ガーナを知るための45章』明石書店、2011年、第3章、27-31頁。

栗田和明『アジアで出会ったアフリカ人』昭和堂、2011年、全249頁。

〔学会発表〕(計5件)

松本尚之「在日アフリカ人の就業戦略とその問題 - ナイジェリア・イモ州出身者の事例をとおして」日本アフリカ学会第50回学術大会、於：東京大学、2013年5月26日。

鈴木裕之“Pour mieux comprendre des autres : deux expériences personnelles durant mes recherches sur le terrain” 国立民族学博物館・フランス国立パリ・デカルト大学人口開発研究所共催、日仏研究フォーラム<人口学から世界を理解する>、於：国立民族学博物館、2012年11月24日。

三島禎子「遠隔地交易から国際貿易へ - ムスリム商人ソニンケの歴史と現在」立教大学平和・コミュニティ研究学会、於：立教大学、2012年7月28日。

松本尚之「『国家なき社会』の王族たち - ナイジェリア・イボ社会における委任首長制のその後」日本アフリカ学会第49回学術大会、於：国立民族学博物館、2012年5月27日。

鈴木裕之「アビジャンの音楽産業とグリオの伝統的技芸：近代化の中で継承される<誉め歌>の伝統」日本アフリカ学会第49回学術大会、於：国立民族学博物館、2012年5月27日。

〔その他〕

論評・事典項目・その他

奈倉京子「第2世代以降の移民の生活世

界から『帰還』、『故郷』を再考する』『民博通信』No.136、pp.32-33、2012年3月。

奈倉京子「『母国』に『帰国』した移民から故郷の意味を問う」『月刊みんぱく』pp.10-11、2012年5月。

奈倉京子「個人『帰還』体験からみる国家・国民の両義性」『民博通信』No.139、pp.26-27、2012年12月。

松本尚之「横浜の中のアフリカ - 在日アフリカ人たちの暮らし」『Yearbook Institute of Urban Innovation, Yokohama』2012/2013年、2013年、58-59頁。

三島禎子「紛争・戦争 移民と紛争」『世界民族事典』3-6、丸善出版、2013年、96-97頁。

三島禎子「移動・移民 移民コミュニティ」『世界民族百科事典』9-5 丸善出版、2013年、332-333頁。

三島禎子「グローバル経済 脱国家化」『世界民族事典』16-12 丸善出版、2013年、602-603頁。

鈴木裕之「アフリカ音楽事情(4)-ワールド・ミュージックの時代」『音楽文化の創造』66号、(財)音楽文化創造、2013年、26-27頁。

鈴木裕之「アフリカ音楽事情(2)-メッセージを伝える音と声」『音楽文化の創造』64号、(財)音楽文化創造、2012年、26-27頁。

鈴木裕之「アフリカ音楽事情(3)-ストリートから生まれる新しい音楽」『音楽文化の創造』65号、(財)音楽文化創造、2012年、34-35頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

和崎 春日 (WAZAKI, Haruka)
中部大学・国際関係学部・教授
研究者番号：40230940

(2) 研究分担者

田中 重好 (TANAKA, Shigeyoshi)
名古屋大学・環境学研究科・教授
研究者番号：50155131

栗田和明 (KURITA, Kazuaki)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：10257157

渡辺 欣雄 (WATANABE, Yoshio)
国学院大学・文学部・教授
研究者番号：90103209

三島 禎子 (MISHIMA, Teiko)

国立民族学博物館・民族社会研究部・
准教授
研究者番号：20280604

松本 尚之 (MATSUMOTO, Hisashi)
横浜国立大学・教育人間科学部・准教授
研究者番号：80361054

鈴木 裕之 (SUZUKI, Hiroyuki)
国士舘大学・法学部・教授
研究者番号：20276447
(平成24年度より連携研究者)

(3) 連携研究者

若林 チヒロ (WAKABAYASHI, Chihiro)
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授
研究者番号：40315718

奈倉 京子 (NAGURA, Kyouko)
静岡県立大学・国際関係学部・講師
研究者番号：70555119